

熊本県高等学校教育研究会英語部会

事業タイトル：Blaze a trail～道を切り開け～

ア 事業名

- (ア) 第36回熊本県高等学校スピーチコンテスト
- (イ) 第19回熊本県高等学校ディベート大会
- (ウ) 第8回熊本県高等学校英語スキットコンテスト

イ チームを構成する高校

当該コンテスト及び大会に参加する県内高校

ウ 実施時期

- (ア) 令和5年9月16日(土)
- (イ) 令和5年10月7日(土)
- (ウ) 令和6年1月20日(土)

エ 事業内容

(ア) 第36回熊本県高等学校スピーチコンテスト

- ①実施会場：熊本学園大学
- ②出場者：24名(17校)
- ③審査員：4名(ネイティブ2名を含む)
- ④参加資格：熊本県内の高等学校、特別支援学校(高等部)、高等専門学校の1～3年に在学する生徒であること。海外生活体験等による制限は設けないが、留学生並びに米軍基地内の学校のように、外国の学校に在籍する生徒は参加できない。
- ⑤内容：自由とするが未発表のものに限る。
- ⑥審査基準：内容(構成、論旨等)、英語(発音、イントネーション等)態度(表現、伝達等)を見る
- ⑦その他：上位2名は令和5年度第33回九州地区高等学校英語スピーチコンテスト(宮崎県開催)出場。



(イ) 第19回熊本県高等学校ディベート大会

①実施会場：熊本西高校

②出場者：79名（11校・16チーム）

③審査員：31名（ネイティブ11名を含む）

④参加資格：熊本県内の公立高等学校（高等部）、私立高等学校、高等専門学校1～3年に在学する生徒。英語のネイティブスピーカーは不可。次の海外生活経験者の条件に該当する者はチーム2名以内。

○英語を第1言語とする国で12ヶ月以上滞在経験のある生徒（就学前の滞在は不問）

○英語を第2言語とする国の出身である生徒（就学前の滞在は不問）

○家庭で常用的に英語を使っている生徒

ただし、該当生徒で各試合に出場できるのは1名以内。（試合ごとの変更は可能）

⑤チーム構成：○同一校に在籍する生徒4名～6名により構成。3名以下でのチーム登録は原則認めない。（メンバーの当日病欠など、不可避の事故的な理由がある場合に限って、事務局の判断で3名でのチーム登録を許可することもある。）

○各試合には4名が出場（試合ごとにメンバーの入れ替えが可能）。

○1校から複数チームの参加も認めるが、大会の運営能力を超えた場合は参加チームの多い学校に調整をお願いする場合がある。

○参加申し込み後の選手の入替えは原則として認めない。

⑥論題：That the Japanese government should legalize gestational surrogacy
日本政府は、代理出産を合法化すべきである。是か非か。

⑦大会までの準備：

令和5年7月15日（土）高校生英語ディベート講習会

初心者コース・練習試合コース

同年 8月27日（土）第2回高校生英語ディベート練習会

同年 9月23日（土）第3回高校生英語ディベート練習会

⑧その他：上位2チームは令和5年度第18回九州地区高等学校英語ディベート大会（佐賀県開催）に出場。



(ウ) 第8回熊本県高等学校英語スキットコンテスト

①実施会場：熊本学園大学

②出場者：75名（18校・27チーム） ※令和4年度実績

③審査員：6名（ネイティブ2名を含む）

④参加資格：熊本県内の高等学校、特別支援学校（高等部）、高等専門学校の1～3年に在学する生徒であること。海外生活体験等による制限は設けない。

⑤スキット規定：○スキットとはいわゆる「寸劇」のことである。参加者2～3人が1組となり、役を演じる。台詞はすべて英語とする。

○本年度のテーマは未定。

場面設定等は自由だが、生徒によるオリジナルな作品に限る。演技開始直後に場面設定を説明する短いナレーションを入れることも可。ただし、そのナレーションは参加者が行うこと。

○発表時間は3分以内とする。規定時間を超えた場合、5秒毎に1点減点とする。

○原稿提出後の内容・台詞の変更は原則として認めない。マイクは使用しない。

○服装は原則として、制服とする（制服の指定のない学校を除く）。小道具は各校で準備すること（最小限にとどめること）。

○本年度はビデオ審査となるので、各校の体育館ステージや教室等で撮影したものを高英研事務局まで提出すること。

⑤内容：自由とするが未発表のものに限る。

⑥審査基準：内容（構成、論旨等）、英語（発音、イントネーション等）、態度（表現、伝達等）を見る。